



かみのせき 議会だより

2012

1/27

No.117



鳩子の湯

平成 23 年 12 月 定例会

| | |
|---------------|------|
| 議案・補正予算・条例・報告 | 2～3P |
| 一般質問 | 4～6P |
| 視察報告 | 6～7P |
| 研修・請願・編集後記 | 8P |



新年のご挨拶



上関町議会議長
山谷良数

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、上関町議会を代表して町民の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
常日頃から町行政、とりわけ議会に対するご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年、3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、各地で台風や集中豪雨等に見舞われ被害に遭われた皆様には衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、昨年12月には待ち望んでおりました上関海峡温泉「鳩子の湯」がオープンし、数多くの方々にご来館いただいております。末永く皆様から愛される施設になるものと期待しております。

さて、本町は過疎少子高齢化の進むなか、現段階において大変厳しい財政状況であると改めて現実を直視し、どのような町づくりができるものか議会と執行部で自由に話し合う場として、地域ビジョン検討会を設置しております。委員においては様々な意見があると思いますが、異なる意見も相互に敬意をもって、議論を避けず、丁寧に議論をして町民の皆様のご期待に応えられるような活気ある上関町の実現に向けて努力する所存であります。

今年 は辰年。暗雲を吹き飛ばし、景気も上り調子となり、明るく輝きに満ちた年になることを切に願うところです。

最後になりましたが、本年も町議会に対し、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

平成23年 第4回定例会 可決 一般会計・特別会計補正予算

議案

平成23年第四回定例会は12月6日から14日までの9日間の日程で開催された。

提出された議案は、

平成23年度一般会計及び特別会計の6会計の歳入歳出補正予算、条例の制定5件、規約の変更等2件、及び報告2件、審議の結果、いずれも可決された。

条例の制定

○議案第1号

上関海峡温泉施設の利用料金区分に、家族風呂利用料を追加するため。(別表1)

○議案第9号

暴力団の排除等に関する規定をする条例。

○議案第10号

軽自動車税の納期を変更する条例。

○議案第11号

スポーツ基本法の施行により、体育指導委員の名称を変更する必要があるためである。

○議案第12号

上関福浦地区に若者定住促進住宅を、新たに3戸建設したことによる。

(別表1)

上関海峡温泉の浴場施設利用料金 (消費税を含む)

| 区分 | 金額 |
|----------|--|
| 中学生以上の者 | 1回につき 600円 |
| 回数券 11枚券 | 6,000円 |
| 会員券 1年間 | 45,000円 |
| 会員券 半年間 | 25,000円 |
| 中学生未満 | 1回につき 300円 |
| 3歳以下 | 無料 |
| 家族風呂 | 1時間につき 3,000円 延長1時間につき 1,500円 |
| 備考 | 会員券は、登録した個人のみ使用できる。ただし、定休日及び臨時休業時には使用できない。 |

○議案第2号

歳入歳出予算の総額に、それぞれ2851万7千円を追加し、予算総額を45億4447万8千円とする。

歳入の主なものは、障害者医療費、保育所運営費に係る国、県支出金の増額、財政調整基金からの繰入金増額である。

歳出では、障害者更生医療費、保育所の入所者の増に伴う委託料、道路維持改良費、消防団員災害補償の増額が主なものである。

○議案第3号から第8号までは

特別会計における、各会計の職員の人件費補正のほか、簡易水道事業会計では、漏水等の修繕料の増額などが主なものである。



にぎわう「鳩子の湯」

規約の変更

○議案第13号

山口県市町総合事務組合の、退職手当支給事務を共同処理する団体から周南東部環境施設組合が離脱し、平成24年4月1日より、同組合の交通災害共済事務を共同処理する団体に周南市が加入するため。

○議案第14号

周南東部環境施設組合が、山口県市町総合事務組合から離脱することに伴う財産処分についてである。

報告(専決処分)

第1号(別表2)
温浴保養施設備品に係る動産取得契約の変更についてである。

配付報告

第2号(別表3)
平成22・23年度継続事業の請負契約の変更についてである。
○平成24年度市町予算編成に際して商工会助成について(要望)(提出者)
山口県商工会連合会
会長 藤村 利夫

契約の変更

(別表2)

| 工事名 | 内容 | | | 契約の相手方 |
|----------------------|-------|-------------|-------------|--------------|
| | 事項名 | 変更前 | 変更後 | |
| 上関温浴保養施設備品(温浴設備関係備品) | 契約年月日 | 平成23年9月15日 | 平成23年10月5日 | 今村商店 今村保人 |
| | 契約金額 | 13,965,000円 | 15,023,400円 | |

(別表3)

| 工事名 | 内容 | | | 契約の相手方 |
|---------------------|-------|--------------|--------------|-------------------------|
| | 事項名 | 変更前 | 変更後 | |
| 平成22・23年度温浴保養施設建設工事 | 契約年月日 | 平成23年9月15日 | 平成23年10月11日 | 日立建設㈱ 取締役支店長 前田志郎 |
| | 契約金額 | 643,828,500円 | 649,818,750円 | |



下村氏は、3期目で町の将来のため尽力されることを期待します。



下村 正和氏

10月14日に招集されたの議案を可決した。副町長の選任について、下村正和氏の再任を全会一致で同意した。

臨時議会

地域ビジョン検討会・雇用・定住

避難対策など4名の議員が問う

問 検討会の位置づけ!

答 賛否の垣根を越えた意見交換を!



清水 敏保 議員

今後の町づくりについて、本町の現状や現計画を踏まえ、色々な角度から現実的な話し合いの場ということ、「地域ビジョン検討会」が始まった。しかし、議会内には検討会を立ち上げた経緯や目的等にズレがあるようだ。また、上関原発に関する情勢の認識にもズレがある。これらの認識を共有しない限り議論が進まないのではないかと。町長の見解は。

町長答弁

今、大切なことは現



第1回地域ビジョン検討会

在本町の置かれている立場・現状を共通認識し、原子力財源のない場合と原子力立地が遅れる場合の二つの想定や影響について30年の歴史の中、お互いの主張や思いもあると思うが今、町民の暮らしの安定のため、相手の立場にスタンスを置いて原子力発電立地に対する賛否の垣根を越えた意見交換をしていくことだと思う。

問 地域資源を活用したまちづくりを

答 検討会で取り組みたい!



祝島の朝市

自然から得た利益を自然に返すことによつて、風・光・森・水・土という地域資源を活用し、持続可能な地域づくりを目指した町政を展開している高知県梶原町へ視察へ行ってきた。上関町と梶原町は、海と山と環境は異なるが、人口、予算規模はほぼ同じ。町が主体となり積極的に事業に取り組む姿勢は、今後の上関町に必要であると考えるが町長の見解は。

町長答弁

地域の資源を活用したまちづくりは、私も基本的な考えは同感である。資源を掘り起こし有効に進めていくことは大切だと思う。基幹産業である漁業、美しい風景、歴史的文化などうまくつなぎ合わせ、観光資源を再構築し、また、歴史ある花咲く海の町としての観光、新たな上関海峡温泉等は期待されると思う。今後検討会で取り組みたい。

問 原発からの脱却と持続可能な上関町を

答 国の動向を注視していく



山根 善夫 議員

原発の安全性について今回の事故以後も認識に変化はないか。原発は必要悪と発言しているがその真意は。福島県知事は原発事故後原発依存から脱却し、新生福島を創造すると決断した。上関町も脱原発を含みをもたせた検討会を設置した。新町政の課題は脱原発の意思を強くし、持続可能な上関町を創造していくことだと考える。以上、町長の見解を問う。



安心安全なまちづくりを！
(祝島 どんど焼き)

町長答弁

国の動向を注視している状況で、私から原発をやめるという判断はできない。原発誘致の大前提は安全あつてのことだ。福島状況の察すれば声高には言えないが、あえて申し上げるなら、福島第一を省いて判断すれば私は安全性を確保していると思う。また、原発の必要悪という発言に関しては、必要性とは、町にとって原発財源は安定し即効性がある。悪とはこの問題で人間関係に悪影響を及ぼしていることから必要悪と言った。



嶋尾 忠宏 議員

問 雇用・定住・優先項目では

答 平成24年度重点項目の位置づけ



若者定住促進住宅 (福浦)

近隣の市町でも工場閉鎖や縮小などがあり、さらに雇用問題が深刻になっている。条件の悪い上関町では、もっと深刻な状況であるし雇用対策は優先項目と思う。また、若者定住促進住宅を本年度まで13戸建設しているが、予想以上の需要があり、もっと必要と考える。財源確保が不透明な状況であるが、来年度に向けてのお考えをお聞きする。

町長答弁

定住対策は私も同様な考え、限られた財源を優先して充当すべき事業の一つとして上げている。的確に住民のニーズを把握しながら取り組みたい。雇用対策は産業の空洞化や景気低迷で就業できない人が多数いる中、海峽温泉オープンにより大きな雇用の場となった。今後事業の促進や、観光産業など企業誘致についても模索していきたい。



鳩子の湯スタッフ

問 避難計画はどうするのか

答 今後の検討課題！



岩木 基展 議員

東北大震災以後、国も避難区域を半径10kmから半径30kmに広げ、安定ヨウ素剤の準備区域も半径50kmに広げています。上関町も、伊方原発の半径50km圏内に入り、一番近い八島の一部は半径30km圏内にかかっていますので避難計画をたてるべきだと思ふし、南風がふけば上関町全体に影響がでると思うが、どの



伊方原子力発電所 30km 圏内図

ように考え、対応していくのか。

町長答弁

現在、国において30km区域内における放射線の影響や、そこで講ずる対応策、避難基準等については今後の検討課題とされており、今後原子力防災指針が改正されるまでには、さらに議論が重ねられると聞いております。国の指針が固まり、山口県においても地域防災計画の見直し等が必要となれば、町もそれに準じた見直しを行う手順になると考えます。



桒原町役場にて



小水力発電所視察

平成 23 年
10 月 20 日

視察報告

高知県桒原町

ゆすはら

産業厚生常任委員長

右田 勝

桒原町は上関町の約7倍の広大な面積を有し、その大自然を活かして風力発電を柱にエコ政策として二基建設しており、二〇五〇年には五〇基に増設予定との事です。

本町のように面積の少ない町では風力発電の騒音並びに超低周波問題が解決されていない現時点では風力発電の導入は、広大な面積を必要とすることからしても無理があると言わざるを得ません。改めて自然エネルギー導入のむつかしさを感じました。

視察報告

平成23年
10月21日

愛媛県鬼北町

総務文教常任委員長

篠川 源次

鬼北町は四国の西南部地域に位置し面積は242km²、基幹産業は農業、昭和30年以後人口減少の歯止めに移住交流促進計画を策定し、就農希望の研修者を受け入れ、就農時等にも補助金を支給、閉鎖した工場跡地を開発公社が取得整備し分譲するなど、政策的にも多様に取り組んでおり、本町の定住促進に参考になりました。



鬼北町役場にて



道の駅「森の三角ぼうし」視察

平成23年
12月1・2日

宮城県女川町

町議会副議長

西 哲夫

女川原子力発電所は、地震発生時に3号機まで自動停止し、翌日の正午過ぎには冷温停止が確認され安全確保の仕組みが有効に機能し、原子力災害を出していないことが確認できた。

津波の高さは福島も女川も同等であったが、被害状況が大きく異なった要因は、地震・津波に対する安全裕度、新見の収集、建設年度の違いであり、原子力発電所建設は過去の災害を知見し、安全対策・立地地点の確実な評価を実施すれば、想定外の地震・津波にも耐えることが出来る確信を得た視察であった。



被災した女川町



旧マリンピア女川



女川原子力発電所構内

新年あけまして おめでとうござい ます。

町議会議員一同

請願の ゆくえ

取り下げ 申出書提出

◆平成23年2月28日に提出された「請願」上関原子力発電所準備工事、建設工事を妨害する行為の排除ならびに工事の円滑な促進を求める請願は継続審査となっていました。請願者から取下申出書が提出され、承認されました。



○山口県町自治研修会

9月27日に、山口市で開催されました。講師は読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏で「東日本大震災と政治のあり方」について、講演されマスコミから見た震災と政治について鋭く解説された講演でした。

○熊毛郡議会広報

連絡協議会研修会 10月18日に広島県世羅町で、熊毛郡3町合同で行いました。研修内容は議会広報の編集について協議し、各町委員の質問、意見は活発で、町独自の特徴を加え懇切な対応をなされ、同協議会の広報委員の親睦も深まり、大変有意義な研修会でした。

○熊毛郡町議会議員 合同研修大会

10月26日上関町で開催されました。講師は山口県商工労働部新産業振興課の内山徹弘氏で「次世代産業の集積に向けた取組について」講演され、現在の山口県の産業のポテンシャル・特徴を生かした本県産業の課題と目指すべき姿について講演されました。

○町議会広報研修会

11月24日に田布施町で県内の町議会広報委員の研修会が開催されました。演題は「広報力を高めるために」講師、大村印刷デザイン部部长濱田泰氏が、広報メディアの変化、住民が求めるコンテンツについて講話され、住民に親しまれる広報作りを勉強しました。



広報研修会（広島県世羅町）



郡合同研修大会（上関町）

編集後記

平成23年、東日本大震災、各地の豪雨による土砂災害など、災いの一年でした。これは自然が人間に対する警告ではないかとフツと思ったりします。一年を表わす漢字に絆という字が選ばれました。この字のもつ意味はいろいろと深いものがあると思います。人と人、人と地域、人と自然など人がそれぞれのかかわりに感謝し、愛情をもって接することで生まれるのではないかと

感じます。平成24年がそれぞれのつながりの中で、町民皆が健康で災いのない笑顔で過ごせる年であるようお祈り致します。
さて、私達このメンバーでの編集は今回で最後となりました。親しんでもらえる「議会だより」に努めてきました。皆様からの意見をお待ちしています。

広報公聴特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 岩木 和美 |
| 副委員長 | 山根 善夫 |
| 委員 | 海下竜一郎 |
| 〃 | 篠川 源次 |
| 〃 | 嶋尾 忠宏 |
| 〃 | 右田 勝 |

